



日本救急救命学会

JSELS

newsletter

Japanese Society for emergency life-saving

第15号

令和6年12月1日

一般社団法人日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区 中野2-2-3 (株)へるす出版内
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

第10回日本救急救命学会学術集会 開催御礼

10月19日島根県出雲市で開催しました第10回日本救急救命学会学術集会は、現地、Web合わせて150人以上の方に参加していただき盛会のもと終了することができました。

ご参加いただきました皆様、ご協賛及びご出展企業の皆様には、心より御礼申し上げます。

今回のテーマを「救急救命現場のコミュニケーション～共有そして協働～」とさせていただきますが、教育講演では、外傷のチーム医療では、スキルよりチーム内のコミュニケーションの質こそが救命を左右するそのためのコミュニケーションの学問が構築されていることを知りました。

また、パネルディスカッション、一般演題では、各発表者のご意見、会場とのディスカッションを聞き、改めて救急救命にはコミュニケーション能力が不可欠であり、救急救命現場をシームレスにする役割を担っているのではないかということに気が付かせてもらいました。今回、縁結びの地 出雲で開催させていただき、救命救急の名のもと参加者の皆さまとご縁が結ばれたこと深く感謝いたします。

第11回日本救急救命学会学術集会は、喜熨斗大会長のもとと国士舘大学世田谷キャンパスで開催されます。ぜひ、ご参加いただきますようお願いいたします。

大会長 竹田 豊

企業警備保障株式会社・元出雲市消防本部



会員募集中

名称 **一般社団法人日本救急救命学会**

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
 - ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
 - ・ JPTEC協議会への役員の派遣
 - ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急救隊員資格を有する個人。

- ③名誉会員本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。
- ④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。
- ⑤学生会員

会員登録

年会費9,000円（学生会員無料）

（協賛会員団体50,000円/口）

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、年会費をお振り込み下さい。

お振込が確認できた段階で会員登録致します。会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいませ、ようお願い申し上げます。

日本救急救命学会
会員申し込み専用フォーム



第10回日本救急救命学会学術集会を振り返る

開催日時：令和6年10月19日（土）10時00分～18時00分
 会場：島根大学医学部臨床講義棟（島根県出雲市塩冶町89-1）
 方式：対面及びWeb開催（Zoomウェビナー）による中継
 会長：竹田 豊（企業警備保障株式会社・元出雲市消防本部）



■大会長講演 竹田 豊（企業警備保障株式会社）
 「救急救命現場の「コミュニケーション」を考える
 ～共有、そして、協働～」

■教育講演 演者 渡部 広明
 （島根大学医学部附属病院高度外傷センター
 島根大学医学部Acute Care Surgery教授）
 「病院前外傷診療における医療チームと救急隊との連携
 ～外傷ドクターカーにおける円滑な
 救急隊-医療チームの連携のために～」

■パネルディスカッション①
 「救急救命現場のコミュニケーション～共有～」
 座長：西岡 和男（熊本市市民病院）
 ▷救急現場のコミュニケーション教育における学習者の意識調査について
 一柳 保（日本救急救命学会・高野町消防本部）
 ▷病院救命士が担う慢性期対応のプレホスピタルケア
 深野 幸太（加藤病院診療部診療科）
 ▷通信指令員や救急救命士が行う状況評価や現場活動における二重課題干渉の影響
 萱沼 実（富士五湖消防本部）
 ▷能登半島地震における緊急広域避難搬送ミッションの活動について
 和田 広大（兵庫県災害医療センター）
 ▷チームとしてのコミュニケーションはどうあるべきか？
 江角 泰介（出雲市消防本部）

■ランチョンセミナー 演者 林 健太郎
 （島根大学医学部附属病院高度脳卒中センター 教授）
 座長：日高 武英（公立邑智病院）
 「高度脳卒中センターの開設と医療アプリケーションを活用した運営」

■一般演題①「救急救命士の臨床」
 座長：萱沼 実（富士五湖消防本部）
 日高 武英（公立邑智病院）
 ▷病院救急救命士採用後の医師を含む他医療職種へのタスク・シフト/シェアの効果について
 石本 琢郎（福井厚生病院）
 ▷病院救急救命士業務および教育体制の見直しと今後の教育課題
 藤井 紳伍（北摂総合病院）
 ▷超緊急帝王切開術における救急救命士のタスク・シェア
 澤田 涼矢（相沢病院）
 ▷当院における院内救命士の急変対応チームの現状と課題
 岸田 全人（埼玉医科大学国際医療センター）
 ▷救急救命士のスキル標準化に向けての取り組み
 清水 謙治（相澤病院）
 ▷在宅医療での救急搬送における訪問診療クリニックの救急救命士の有用性について
 大友 泰世（大江戸江東クリニック）

■一般演題②「救急救命士の臨床」
 座長：森山 等（大田市消防本部）
 ▷「救急救命士の臨床」のあり方について
 榎本 暁（東京消防庁）
 ▷ショック患者に対する病院前輸液とその予後調査
 織田 智治（安城厚生病院）
 ▷救急隊により搬送された症例のフィードバックに関する当院での検討
 松谷 将平（埼玉医科大学国際医療センター）
 ▷重傷傷病者の発生に関連する環境要因と時間的傾向
 宮崎 寛典（知多中部広域事務組合消防本部）
 ▷医療現場でのコミュニケーション
 織田 聡一郎（石橋地区消防組合）
 ▷地域、職域を超えた病院前救護のコミュニケーションスキル向上の取り組み
 二宮 智将（全国救急救命NET）



第10回日本救急救命学会学術集会を振り返る

■パネルディスカッション②

「救急救命現場のコミュニケーション～協働～」

座長：北村 浩一（石橋地区消防組合）

▷病院救命士と救急隊との良好なコミュニケーションが地域のメディカルコントロール体制充実に寄与する

宮上 和也（日本医科大学武蔵小杉病院）

▷救急車内の様子を管内一次救急医療機関に映像伝送するシステムの構築について

一柳 保（高野町消防本部）

▷当院救急救命士による施設間搬送への取り組み

堀江 成龍（医誠会国際総合病院）

▷救急車運行におけるコミュニケーションの課題

三木 大輔（大阪市消防局）

▷院内救命士と他職種が協働することの重要性

飯尾 聖（千代田病院）

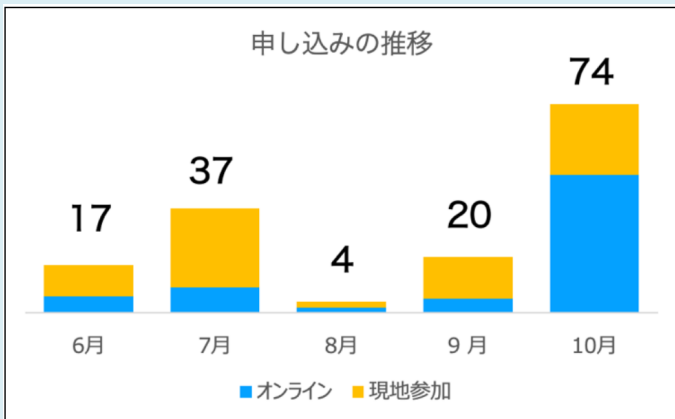
開催状況報告

現地参加81名 オンライン参加71名
総参加者 152名

【参加方法別参加者内訳】

区分		申込数	参加区分別	総計
現地参加	会員	40	81	152
	非会員	13		
	学生※社会人の学生は除く	28		
オンライン	会員	35	71	
	非会員	28		
	学生※社会人の学生は除く	8		

【申込数 月別推移】



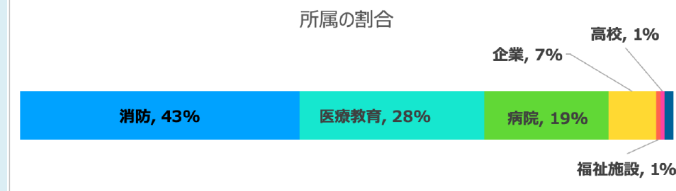
【資格別申込み者内訳】

資格	救急救命士	医師	看護師	救急隊員有資格者	上記以外の医療職種	その他	総計
	121	4	2	2	2	21	152



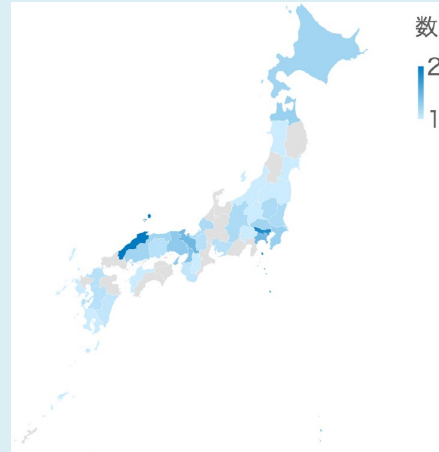
【職種別申込み者内訳】

所属	消防	医療教育	病院	企業	福祉施設	高校	その他	総計
	65	43	29	11	1	1	2	152



【所属県内訳】

県名	数
島根県	21
東京都	18
京都府	10
神奈川県	10
大阪府	8
兵庫県	7
青森県	6
千葉県	6
広島県	5
埼玉県	5
鳥取県	5
北海道	5
茨城県	4
長野県	4
栃木県	4
福井県	4
愛知県	3
岡山県	3
熊本県	3
滋賀県	3
福岡県	3
宮崎県	2
和歌山県	2
P.A.U.S.A	1
愛媛県	1
宮城県	1
群馬県	1
山梨県	1
鹿児島県	1
秋田県	1
新潟県	1
長崎県	1
奈良県	1
福島県	1



報告・作成：天野忠好
(江津邑智消防組合)

第11回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ

開催日時：令和7年10月12日（日） 9:00～17:00（予定）
 会場：国土舘大学世田谷キャンパス メイプルセンチュリーホール（東京都世田谷区世田谷4-28-1）
 方式：現地開催・一部リアルタイムウェブ配信
 会長：喜熨斗 智也（国土舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授）
 テーマ：専門性の深化と進化 - 救急救命士のprofessionality - HP: <https://www.11th-jseles.jp/>

会長挨拶



皆様、平素より日本救急救命学会の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。この度、「第11回日本救急救命学会学術集会」を国土舘大学世田谷キャンパスにて開催させていただくこととなりました。本大会の開催にあたり、多くの方々のご尽力とご協力で深く感謝申し上げます。

救急救命士を取り巻く環境は、救急救命士法改正による救急救命処置の実施の場の拡大、救急救命処置の内容の拡大、救急需要の増加による救急車の到着時間の延伸、DNARの問題、働き方改革など、劇的に変化しています。

この背景を踏まえ、本大会のテーマを「専門性の深化と進化 - 救急救命士のprofessionality -」としました。このテーマは、私たち、救急救命士が今直面している課題とその先にある可能性を象徴しています。救急救命士は、国民の生命を守る最前線に立ち、その専門性がますます重要視されています。私たちの専門性は単に現在の知識と技術を維持するだけではなく、常に深化させ、社会の変化に対応して進化する必要があります。その先に時代のニーズに応えられる、救急救命士のprofessionality（真価）が発揮できるものと確信しております。本学術集会では、救急救命士の役割や責任、さらなる専門的技術・知識の向上、そして新たな時代の課題への対応策について、幅広い視点から議論を深めていきたいと考えています。

今回の学術集会は、現地開催を基本とし、国土舘大学世田谷キャンパスメイプルセンチュリーホールで皆様をお迎えすることを予定しております。また、現地での参加が難しい方々にも、リアルタイムでウェブ配信を通じてご参加いただけるよう、一部のプログラムをオンラインで提供いたします。これにより、全国各地の多くの皆様に本学術集会にご参加いただき、議論や知識の共有をしたいと思います。

また、本学術集会は、救急救命士だけでなく、様々な職種の医療従事者、研究者、教育者、行政関係者など、多くの分野の専門家が一堂に会し、互いの知識や経験を共有する貴重な機会となることを願っております。異なる視点を交えた議論を通じて、救急救命士の将来像や、

今後必要とされる体制や教育の在り方について新たな知見を得られる場となることを強く期待しております。

最後に、本学術集会が、皆様にとって有意義な学びと交流の場となり、救急医療の現場での実践に還元できる成果を得られることを心より願っております。これからも救急救命士の専門性の向上に向けた取り組みを継続し、社会の安心・安全に寄与してまいりたいと考えております。

どうぞ、第11回日本救急救命学会学術集会にご期待いただき、積極的なご参加をお願い申し上げます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第11回日本救急救命学会 学術集会 会長
 喜熨斗 智也
 （国土舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授）



第11回日本救急救命学会 学術集会

専門性の深化と進化 ～救急救命士のProfessionality～

大会長 喜熨斗 智也（国土舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授）

場所 国土舘大学世田谷キャンパス メイプルセンチュリーホール
 東京都世田谷区世田谷4-28-1

開催 対面/Web(一部のみの配信予定) ハイブリッド



救急救命士ジャーナル第15号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第15号のお知らせです。今号も皆様が興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

次号4巻4号の目次（予定）

- ◆特集：能登半島地震～後世につなぐ現場の見聞録～
・半島地震における救急活動時の課題～令和6年能登半島地震～（小泊 宏紀）・緊急消防援助隊滋賀県一次派遣大隊活動（小田 浩文）・行政官として対応した激甚災害、能登半島地震での記録（加藤 渚）・能登半島地震におけるDMATの活動と救急救命士の役割（増留 流輝）・能登半島地震での日赤救護班としての経験（西尾 めい）
- ◆進取果敢～全国各地、新たな取り組みを紹介！～【第14回】増加する救急搬送需要にどう応える？～DXツールと官民連携が拓く新時代（匂坂 量）・救急DX導入の必要性と、導入の経緯（金城 琢也）
- ◆救命の鼓動～12誘導心電図（伝送）で読み解く心臓の声～【第3回】栃木市消防本部での12誘導心電図伝送の導入と効果（中村 聡）
- ◆そこが知りたい！～職務見聞録～救急救命士 in Hospital【第9回】医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院（井沼 浩政）
- ◆いろんな救急救命士をピックアップ 救急救命士図鑑【第14回】テーマパークで働く救急救命士（上西 千弥子）

- ◆外傷病院前救護の現状 from JPTEC【第14回】JPTEC ブラッシュアップセミナー2024 開催報告（早川 達也）

◆投稿論文

- 【原著】病院前救護における体温の評価とその判断における留意点に関する検討（成田 寛之）
- 【原著】わが国のOHCA症例における気管挿管と食道閉鎖式エアウェイ使用による心拍再開と脳機能予後の転帰相違理由を解明する研究（坂田 章法）

2024年12月20日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）
へるす出版のサイトからご購入いただけます。

<https://www.herusu-shuppan.co.jp/category/magazine/qqi/>



第10回日本救急救命学会学術集会を振り返って

第10回日本救急救命学会学術集会は、延べ152名の方にご参加いただき盛会のうちに終了致しました。本会では竹田 豊 大会長のもと、「救急救命現場のコミュニケーション～共有そして協働～」というテーマのもと、主にコミュニケーションにクローズアップされた学術集会でありました。大会長講演や教育講演においても救急救命士制度の変遷やチーム医療、多職種との協働という内容に触れられておりました。2021年の救急救命士法改正を皮切りに救急救命士は変革期の入口に立っているのではないのでしょうか。

一般演題では救急救命士の臨床についてクローズアップされていました。救急救命士の臨床といえば少し前までは消防組織における病院前の活動がほぼ全てを占めていたと言っても過言ではありません。しかし本学術集会では、医療機関所属の方々の演題が登録演題の半数以上を占めました。さらに、民間組織所属の方による演題も複数発表され

ており、聴講された皆さまも変革期の訪れを実感されたのではないのでしょうか。一方、新しい領域であるがゆえに、各機関の取り組みには多様性が見られ、現状や課題を多くの方に共有する貴重な機会となったと思います。参加者の内訳は、消防機関が約1/3、医療機関・民間が約1/3、教育組織が約1/3と分かれていましたが、全体の母数を考慮すると、医療機関などの新たなフィールドに属する方々の注目度が高かったと推察されます。このような変革期において、足元を固めるべく領域や職種、現場レベルなど様々な角度から見た「コミュニケーション」に焦点を当てた本学術集会を踏まえ、各領域で活躍する救急救命士がそれぞれの強みを次回の学術集会やジャーナルを通じて持ち寄り、相互理解をさらに深めるきっかけとなることを期待しています。

(S.Gotoh)

救急救命士ジャーナル投稿規定

1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は“Journal for Emergency Life-Saving Technician”とする。

2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

- 1) 総説
多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。
- 2) 原著
論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。
- 3) 調査・報告
独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。
- 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト (Microsoft® wordなど) にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

救急救命士ジャーナル投稿規定

13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。
- 4) 文献記載例
<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 発行西暦年;
巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出勤事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.
- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名, 編者名, 書名.
(巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況.
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人權を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。
- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。
- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会
オフィシャルサイト
<https://www.jsels.com>



【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

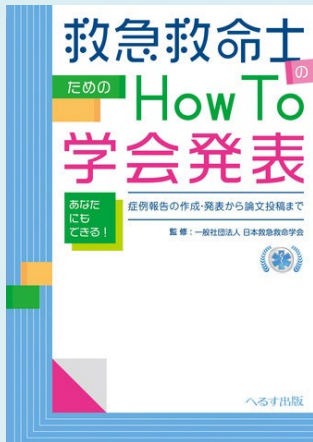
【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。

【広告】学会監修 救急救命士のための How To 学会発表



あなたにもできる！
症例報告の作成・発表から論文投稿まで

学会で発表をしたい、でも何から手をつけてよいかわからない…。そんな救急救命士のために、テーマの見つけ方をはじめ、抄録や原稿の書き方、スライドの作成、学会での発表、さらに論文投稿までを実践できるよう

救急救命士の学会である日本救急救命学会の執筆陣が手ほどきします。

- ★コンパクトなA5判ながら写真や図表を多く取り入れ読みやすい！★
- ★実務的な部分について、経験者の目線から具体的に解説！★
- ★検定方法の解説などでは、そのまま代入して利用できるよう消防組織でなじみのあるデータサンプルで提示★
- ★スライド作りの解説では、Before Afterで例示したり、少しのアレンジですぐに転用できるデザイン集を掲載★

本学会はこれから研究や論文執筆に取り組みたいと考える救急救命士の方を、何らかの形でサポートしていく学会へと進化していきます。そのための第一弾です。

ぜひ、手に取っていただいて、症例報告や研究の第一歩を踏み出すためのきっかけにしてください。

これまで、独学で取り組んでこられた方にも、きっと新しい気づきがある一冊です。

—目次—

Chapter 1 学会発表と論文投稿の勧め

- I 学会発表（症例を報告）することの意義
- II 論文投稿の目的とは

Chapter 2 症例報告から始める研究発表

- I 現場の疑問を研究上の疑問へ変える
- II 先行研究を探す
- III 研究倫理を知る

Chapter 3 症例報告の基本構成

- I タイトル
- II COI
- III 背景
- IV 目的
- V 症例
- VI 考察
- VII 結論

Chapter 4 必要最低限の統計学

- I 統計解析とは
- II データの形式
- III 記述統計
- IV 推測統計1（仮説検定）
- V 推測統計2（回帰分析）
- VI Excel で実践
- VII 仮説検定とP 値の誤解

Column バイアスって何？

Chapter 5 誰もが見やすいスライドの作り方

- I 「シンプルデザイン」とは
- II 骨子を作る
- III ベースデザインを決める
- IV 配色を決める
- V シンプルデザインを考える
- VI 各スライドを作る

Appendix

- ▼グラフの用途とデザイン
- ▼用途別スライドと資料の作り方

Chapter 6 学会発表に向けて

- I 学会に入会する
- II 口述発表

Appendix

- ▼ポスター発表
- ▼Web 会議システムでのセッション

Chapter 7 論文を投稿する

- I 学会発表と論文投稿の違い
- II 論文投稿先を決める
- III 査読とは
- IV 論文を書くポイント

定価 1,980円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

第1版・A5判・136ページ・並製

発行年月：2022年01月

ISBN 978-4-86719-032-6



訃報のお知らせ

日本救急救命学会の評議員として長年にわたり本学会の発展にご尽力いただきました古賀 司 様（社会医療法人緑泉会 米盛病院）が、令和6年10月28日にご逝去されましたことを謹んでお知らせいたします。

古賀様は、その豊富な知識と経験で救急医療の分野に長年にわたり貢献をされ、学会活動にも精力的にご参加いただき、会員の皆様からも多大な信頼を寄せられておりました。古賀様のご功績は、今後も我々の活動を支える重要な礎として生き続けることでしょうか。ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

【広告】学会監修 実践！救急隊員が語る 救急現場のコミュニケーション



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

－目次－

- 第1章 相手を感じる救急隊員の第一印象
救急隊員の身だしなみ
リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう
- 第2章 救急現場で遭遇する人たちとのコミュニケーション
－ケーススタディ－
Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー
Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー
Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション
Episode III 加齢性難聴の傷病者とのコミュニケーション
Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ
Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者
Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム
入電情報に基づく隊員間の段取り
現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない
医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人とのアフターコミュニケーション
引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション
傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション
救急隊のアフターコミュニケーション
「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

- 1 日本語って難しい
- 2 微妙なお年頃
- 3 お母さん黙って…
- 4 女性を見る目はもともとない
- 5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

みなさま、今月号のニューズレターはいかがでしたでしょうか。救急救命士としての活動領域が広がる中、私たちは現場での臨床スキルだけでなく、より深い「コミュニケーション」能力や「相互理解」の重要性を再認識しています。これは、職場内でのチームワークはもちろん、医療機関や教育機関、さらには地域社会との連携において欠かせない要素です。最近では、救急救命士が活躍するフィールドが従来の消防機関から医療機関や民間組織へと広がり、それに伴って課題やニーズも多様化しています。こうした状況の中で、異なるバックグラウンドを持つ人々との協力を、共通の目標に向かって前進していけるのか。その鍵は、相手を理解し、自分の考えを適切に伝えるコミュニケーション能力にあるのでしょうか。臨床現場においても、傷病者やその家族との信頼関係を築くためには、相互理解を前提とした丁寧な対話が求められます。一つの言葉や態度が相手に安心感を与え、またその逆に不安を生む可能性もあるからです。同様に、他職種の医療従事者や教育者との連携においても、お互いの専門性や立場を尊重した対話が不可欠です。第10回日本救急救命学会を通じて、こうしたテーマについて皆様が考えるきっかけとなっただけだと思います。そして、皆さまが日々の業務の中で、より良いコミュニケーションを意識し、臨床の場での実践や他者との相互理解を深めていただければ幸いです。次号も救急救命士としての可能性を広げる内容をお届けできるよう努めてまいります。（S.Gotoh）